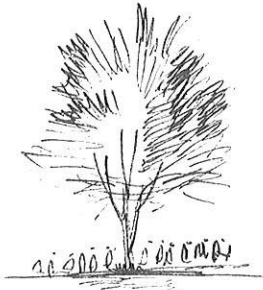


ひかりのこ

# 光の子



No.102 2003. 1. 1

● わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。

(ヨハネによる福音書 15 : 12)



え・中島英子

謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます

社会福祉法人 光の子どもの家

「天へ向く」

一灯をそばだてて川凍みにけり

大利根の枯れより出でて水流る

老いたまふ母に小春をいくたびも

人形のことばつもりて雪になる

きらめくは涙のごとし冬ざくら

枯園や巣箱の穴は天に向く

聖夜来る光の子らに野の丘に

落合 水尾 (『浮野』主宰)

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。

これがわたしの掟である。

竹花 信恵



謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様を支えられ、この家の十八回日の新年を三十四名の子どもたちと共に迎えることができました。

山も海もない田畑広がる景色ですが、朝日も夕日も美しく、遠くの方には小さいながらも真白い富士山がくつきりと浮かんでいます。

きらきら光る霜を踏みしめ、あふれる元気をふりまきながら暮らす仲間のうち、七名の子どもたちと、五名の大人が昨年加わりました。いつの間にか、もうずっと前から共にいるような関係ができていくのが不思議です。知らない他人同志が出会い、かけがえのない存在になっていく、その場が私たちの家であり役割だと感じております。

ところが、その過程の中でなかなか光を見い出せず、暗やみを手さぐりで進むような不安とおそれに何度もとらわれた昨年でした。

もちろん、この家の歴史を共に歩んできたようなメンバーにも、かかえている課題の重さや大きさに大差があるわけではありません。

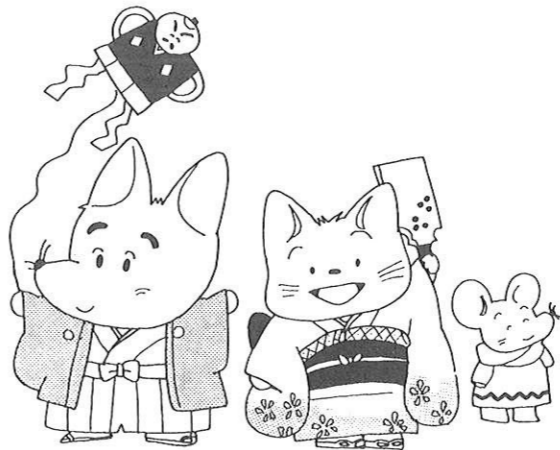
ひとりの力では、私たちだけでは何もできないことを痛感した一年でした。無力感や孤独感に押し流されそうな弱い者たちですが、私たちはこんなにも多くの方々に折られ、助け

られ、恵まれていることを思う時、その力をお借りして、また再スタートしていくことが出来るのです。その繰り返しによってここまで来ることが出来たのです。

何が起るのかわからない社会の状況の中で子どもを取り巻く関係や環境は、親と子の間さえも難しくしていることは確かかなようです。

パニックとも出会います。小さな体で怒りのエネルギーを爆発させる彼女の、彼の、自分をコントロールできないもどかしさを激しい鼓動と共に腕の中で感じる時、この子をちゃんと包み込める力を心から願いました。

何といっても大変な思いをしているのは、子どもたち自身であること忘れてはなりません。彼らが母親の胎内にいる時から、この家にたどりつくまでの日々を、もし追体験できたら、「よく、生きていた」という率直な感動を持たずにはいられません。もし私だったら、あんなに強く生きれない、と思う気持ちは変わりません。私たちが彼らの代わりに生きるのではなく、人生の主役がひとりひとりであることを思う時、愛し合いながら歩む、その道すじを整える手伝いをしていけたらと願います。



子どもたちは、いつのまにか高校生となって社会へ出発の準備を迫られていきます。とてもたのしく職員をほほ越える存在になりつつあるそんな彼らにしても、今ある状況は「安心」とは、ほど遠い試練の日々を自ら抱え、超えようとしているのです。それはこれからもながいこと続くことでしょう。

今年、どんな出会いがあるのでしょうか。どんなことと出会うのでしょうか。出会えたことと、そして、とびきりの笑顔と、さりげない優しさを宝として、また新たなページを開いていきます。

皆様にとっても、素晴らしい一年となりますように。

### 2つの文化に生きる

36

日本キリスト教団東大宮教会  
バーガー 京子

新年おめでとう！

新しい年を迎え、又、新たに希望を持って一年を始められることに感謝である。昨年は教会関係、子ども達の学校関係の事等でいつもになく慌ただしい日々を過ごした。よく考えてみると娘が高校1年生、息子が大学1年生になったわけで家族としてもこの新しい生活に慣れるためにいろいろ工夫しながらおくれた年でもあった。

教会関係では、初めて日本基督教団の総会に全国から集まった四〇〇人あまりの議員の一人として出席させていただいた。三日間に渡る総会を通して理想に向かっていくはずの教団が身動きがとれないほどの様々な問題を抱えていることが分かった。

その教団に属している東大宮教会として私たちにできることは何なのかと考えさせられる時でもあった。

ACWC(アジア教会婦人会議)関係では四年に一度の大会が韓国のソウルで開催され、私は日本の代表者の一人として参加した。アジア十八ヶ国から二〇〇人程集まった教会婦人たちのこの大会は五日間に渡って行われ、前後の移動日を入れて一週間の旅行となった。結婚二十二周年にして初めて家族を残しての長旅に出た私は本当に独身気分を味わってきた。といっても食事の席での会話といえば、つい家族の事、子ども達の事になりがちで、子離れができていないことを自覚する時でもあった。それにしても韓国のお食事のおいしかったこと。毎食出るキムチも病みつきになってしまった。一週間、寝不足だったにもかかわらず、体調も崩さず元気であいられたのはやはり、本場のキムチパワーのおかげだったと思う。又、共通語が英語だったため、朝から晩まで続く各国報告、聖書研究、会議等を通して、この一週間はどっぷりとアジア英語に浸かった。なぜかみんな早口のマレーシア英語、元気元気のフィリピン英語、神秘的なインド英語等、どんな形であつても皆が通じる語学があつてよ

かったよかつたと思つた。どことなくせがあるともアジア十八ヶ国、この際、とにかくお互いに言わんとしていることが通じれば良いのだ。ミャンマーから来ていたルームメイトとは夜遅くまで話をした。国の厳しい経済情勢の中、男性が皆国境を超えて所謂出稼ぎに出ていき、国に残されている女性子ども達の諸問題など、牧師である彼女は夜も眠れないほど頭を悩ましていることを打ち明けてくれた。このACWCの集まりは日本では「地域で証しと奉仕に生きる、草の根」平凡な教会婦人の集まり」と唱えられているが、参加アジア諸国を見回すと自国問題を自ら背負って来ている人が多く、わたしも周りを見て、自分にできることから実行していきたいと改めて思った。

お世話して下さった韓国の若者達とは思った程コミュニケーションがとれず、お店の場所一つきくのものにあちこちうろろしてしまいました。ソウル滞在最終日に大急ぎでソウル観光をしたのだが、ここでもなかなか英語が通じず、どこを見渡してもハングル語の中でこの不思議な活字が読めればどんなに自由になるかと思つた。とにかく最終日、大会参加日本人仲間が皆そろって空港にたどりつ

けたのは奇跡に近いほどの冒険をした後だった。

旅行から帰ってきたら思つたより家が平静だった。仕事をしながら夫が一生懸命、家事をしていたのはほんとにえらいことだとほめてあげたが、それよりも子ども達も協力してなんとかやっていたようだ。私がいなくても家族はなんとかがやっていたんだという頼もしい発見をした。

この冬休みはアメリカで過ごしているのだが、休みの後半は息子は単独旅行でミネソタ州の友人に会いに行き、最後に私たちとグラスの国際空港で合流することになっている。大学生だからそれくらい当たり前なのだが、新しいことを試みるたびに着実に我が家が育っていることを実感する。

今年一年も新しいことにチャレンジしながら、それぞれの成長をお互いにほめあえるような関係を作りたいと思っている。



# 犬のこと

彫刻家 中島 睦雄

先日、或る地方都市で展覧会が開かれた。絵画、彫刻、工芸、書、写真の五部門で、約一千点近くの作品が展示される。これだけの作品の展示をするのだから、体育館を借りて行うことになる訳だが、作品の搬入から入選、落選の決定、陳列、公開等と、十日間くらいは体育館はにぎやかである。

この間の搬入日の事である。私は彫刻の搬入受付のあたりで、一日中うろろろしていた。ふと気が付くと、体育館の隅の所に、一匹の犬がいるのである。前足をべたんと前に伸ばして、首を足の上に乗せてこちらを見つめている。思わず、はっとする。しかし、これは本物の犬ではなく、彫刻の作品だった。

一度びっくりしてしまつと、あれは作品なのだわかつていても、何かの拍子にその犬に目が行くと、又、はっとするのである。私だけではない。その犬のそばを通る人が何人か、私と同じ

ようにだまされた。

犬の作者は、受付係をしながら、犬にだまされる人を見て楽しんでるようである。

その後、搬入の手続きが全部終わり、陳列が始まった。全身像あり、首あり、抽象作品ありで、なかなか変化に富んだ陳列ができた。その中に、例の木彫の犬も置かれて、じつと前方をにらんでいる。

絵画や写真などの関係者が、右往左往している。その人達が犬の前を通る時「まあ可愛い。」と言って足を止める。確かにこの作品は犬らしいのである。中には頭をなでていく人がいる。「咬みつきますよ!。」と冗談を言ってみる。「さわつちやいけないうでしよう?」「うんとさわつてくたさい。けやきで作つたものだから傷にはなりませんし、油が付いて光つてくれば良いですね。」などと作者がやりとりをしている。

作者のSさんに聞いてみると、このモデルの犬はSさんの家で十七年間飼われていたのださうである。そして、老いてきて体が思うように動かなくなつてきた頃は、いつもこの格好

をして、一日中じつとしていたらしい。「モデルがちつとも動かないんですから、作りやすかつたんですよ。」とSさんは言った。

「でもね、もう少しで作品が完成という時にとうとうこの犬は死んでしまったんです、かわいそうですね。もちろん、口はきかないし、のっそりとしていた犬だったんですけど、人間の気持ちが良いかわかる可愛い犬だったんですよ。屋敷の端の方に穴を掘つて、みんなで泣きながら埋めてやつたんです。線香も、花もあげて……」そう言いながらSさんは涙ぐんでいる。「犬は可愛いですね。」Sさんはそう結んだ。

一緒にいたKさんという男性は「そうだよ、犬は可愛いよ。そこへいくと猫ってえ奴は、可愛い事は可愛いけど、わがままで自分勝手だね。」と言出した。

どうも風向きが悪くなつてきた。わが家ではどちらかと言うと、今のところ猫派だからである。今でこそ一匹しかないが、或る一時期には十三匹も猫を飼っていた事があるくらいだから。

しかし、以前は、長い間犬を大事にしていたものである。終戦直後、「ピース」という名を付けた犬を飼つたのだが、病気で死んでしまった。そ

の次にもらつた犬には、健康で丈夫であるように願つて、ギリシャ神話の中に出てくるアッティカの英雄テシュウスの名を取つて「テス」と名付けた。その後のわが家の犬はすべて「テス」であった。弟の家でさえも犬の名は「テス」である。

展覧会の搬入の翌日、朝起きてみると、一面の雪であった。玄関のガラス戸の向こうに、うす茶色をした弟の家の「テス」の姿がぼやけて見える。「テス」は、毎朝小屋から出してもらうと、近所をあちこち一巡して、必ずわが家に立ち寄る。家内は「テス」用のお菓子をブリキの缶に用意して置くのである。

私がガラス戸を開けると、雪の中を走りまわつてびしょ濡れになつた「テス」がお菓子を待つている。「どうした? 寒くないんか?」私は声をかけながら菓子を割つてやつた。食べ終わると、そそくさと帰つて行つてしまふ。

たつたこれだけの事なのだが、家内も私も、毎朝の「テス」の訪問を心待ちにしている。

事情が許せば、ぜひ犬を飼いたい。血統証はいらない。雑種で良いのである。そして、できればSさんのように、彫刻の作品にしてやりたいと思うのである。

## 学者もどきのつづやき ⑥

### 山形の人たち

山形大学 仙道 富太郎  
山形大学 仙道 富太郎

て次かその次の年に、病理学の助教授として山形大学に就任したのだから。長く住んでいるわりには、つき合つて来た人達の数は少ない。以前にも「光の子」に書いた記憶があるが、住んでいる近所のいくつかの家族とは随分深くつき合わせていただいていた。

「町内有志に教授就任のお祝いをしてもらったのは日本広しといえども私ぐらいのものだろう」とその文章のなかで、威張つて見せたりしたことを、覚えている。

それはそうなのだが、やはり学者の生活は幅が狭い。朝出かけていっ

て夜遅く帰宅するまで大学に居るのだが、親しくつき合う人間は、教室の数名の教職員と、多いときは二〇名近く居たが、大体一〇人足らずの大学院生たちだけである。学長になると教授ではなくなるので、最終講義をしたが、そのときの記録の一部に、山形大学で一緒に過ごした人達の写真を載せた。総勢一〇〇人ほどになり、学者としては、多くの人達とつき合えた方だと感謝しているが、山形の土地の人達とのつき合いは、微々たるものであった。

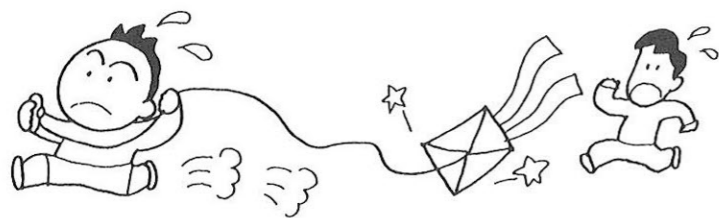
ところが、学長に就任して事情は一変した。好むと好まざるとにかかわらず、学長は山形大学の顔として動かなければならない。いきおい、各界を代表する方々とのつき合いが増えることになる。呢懇といつた関係にはそう簡単になれるものでもないが、お酒の入つた席などでは、その人の考え方が、ほのかにみえることがある。そうしたことが繰り返されるなかで、心底尊敬出来るような多くの方々に出会うことが出来た。今日の学長には結構つらいことも多いのだが、こうした方々との出会いは、私の人生のなかで、大きな収穫となるだろうことを、予感している。

山形の人達は……などと言つてはばからなかつた自分が恥ずかしい。

教育学部の再編・統合の問題が、いま山形大学の重要問題であり、それに頭を悩ませていることは、前回の「光の子」でも触れたが、わがここのように、親身になつて相談に乗つてくれた山形の重鎮の一人のことは、これからも長く私の脳裏に残ることであろう。

私はこの人から、その人の置かれたポジションなどを頭に入れて、色眼鏡をかけて人を判断してはならないことを学んだ。経歴は何であれ、要はその仕事にどう取り組んできたか、その人の生き方が問題であることを教えられた。心のすさんだ福祉関係者だつているし、杓子定規ではない役人だつているのだ。官僚は……などと足蹴様に言うが、明治以来この国の大変革のときに活躍したのは、まさに優秀な官僚達ではなかつたのか。

昨日の経済同友会の集まりでは、素晴らしい洞察力と感覚をお持ちの建設会社社長にであった。「会社にあるギャラリーに学生諸君を連れていつて絵を見せても、誰一人として感動する若者がいない。これはコンピュータに映された本物ではない映像に馴れきつているからで、本物の素晴らしさに対する感覚が麻痺しているのではないか。」といった論



旨であつたように思う。お酒を注ぎに来る人達に何回も会話は遮断され、小生はかなり酔つていたこともあり、正確に彼の言つたことを、記載してないいきらがあるが、この鋭い指摘に私は酔つてしまつた。

二日酔いのままにいまこの原稿をかいているが、体はしんどいが、心はなんとも爽やかである。

あかり窓 心理室から

本格的な冬になってきました。空気が澄んで、光の子どもの家からは夜空に浮かぶ星がとともきれいに見える季節になりました。

私が仙道家で夕食をいただいた時のことです。夕食の後に和哉くんは私の膝の上に乗ってきて、「一匹の子ネズミがー」と歌い始めました。その歌に合わせて私が膝を揺らすと、和哉くんの体もリズムカルに動いてきました。そして、歌に合わせて私がハミングすると、「僕と同じように歌って」とハミングではなく、声に出して歌うように言います。それに応えて、一緒に歌うととても嬉しそうな表情をし、それを見る私も自然に顔がほころびます。その私の表情を見て、和哉くんの歌はますます調子を上げ、大きくて元気な声になりました。あまりにも日常的な声さきことですが、子どもが相手の気持ちを考えてたり、共感することができるようになるためには、欠かせない経験だと思います。和哉くんは入所時に「な

つかない、抱っこされない難しい子」という申し送りがあった子です。その和哉くんがこうやって膝の上で、お互いの声、表情、動きなどを感じて、気持ちの交流をはかれるようになりまし。担当者をはじめとした生活を共にしている職員の丁寧な関わりと、和哉くん自身のもつ成長する力を力強く感じた瞬間でした。 積 みどり

子どもたちの季節 仙道家

新年明けましておめでとうございます。昨年一年皆様のあたたかいご支援のおかげで、子ども達も毎日楽しく生活を送る事ができました。

先日、幼稚園で餅つき大会があり、幼稚園で頑張っている年長組の静一の姿を見る事ができました。

まず、幼稚園のまわりをマラソンする事から始まりました。最近の夕食時、「マラソン、今日も一位だった」と話してくれていたのですが、その日もダントツの一位でした。ゴールの畑の所で待っている時に、園児のお母さん達が「誰が一位かしら」と言っている中、

ゴールまで一生懸命に走ってくる姿には感動してしまいました。そして、ちょっと誇らしげにも思っていました。

幼稚園入園を目前に控えた時、静一は入園を少し遅らせた方がいいのでは思われた子でした。しかし、マラソンをしている時に園長先生から「しっかりと頑張るね。自分の気持ちを言葉にできるように頑張るね」と言われました。年中組の時はまだ幼さを強く感じましたが、年長組になってからは自分の思いや、相手の思いも言語化できるようになったように思います。それは、静一自身の努力、成長、そして静一をあたたく見守り、支えてくださる多くの方々がいだからだと思います。

子ども達のついたおもちを教室で頂いた後、担任の先生から子ども達の様子の話がありました。子ども達は、お互いに思いやる場面がとて多く、一人一人の成長がとて感じられるという内容でした。子ども同士の影響力は大人が関わるよりも大きいのだろうと改めて思いました。 また、この新しい一年子ども達が素

敵な出会いをし、お互いに楽しく、成長できる一年になるよう、私自身また子ども達と新たな思いで生活していきたいと思っています。

皆様、本年もどうぞよろしくお願ひ致します。 市川 美穂

原田家日記

新年明けましておめでとうございます。皆様の暖かいお支えのおかげで子ども達と一緒に新年を迎えることができました。心より感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくおねがい致します。

華美は去年の四月、中学校に入学しました。心も体も常に抱っこを要求していた華美のことをすべてを受けとめる事が出来ず、それなのに「中学生になるんだよ。」というプレッシャーを掛けてしまいました。そのためやり場のない不安等の様々な感情を自身でコントロールすることができず、時には他の子ども達を巻き込むほどのパニック状態に陥ってしまうことで表現され続け、落ち着いた生活とは懸け離れている状況での中学校入学を迎えました。

休まず学校に行つて帰つて来るだけで充分であると考えていたのですが、なんと剣道部に入部。友達に誘われ、興味本意で決めたことだから厳しい練習に付いていくことができるだろうか、と心配していたのですが華美はこちらの想いを見事に裏切ってくれました。

「早く剣道の素振りが見たい。」「高校に行つても剣道をやりたい。」と前向きな姿勢を見せてくれ毎日の練習は勿論、みんなが休みの土日でも朝の5時頃に起きて部活に向かうこともありさすが弱音も吐かず励んでいます。以前、朝の起床からつまずき、みんなが朝食を食べ終わった頃に起きて来ていた華美からは想像が出来ません。

先日私が風邪で寝込んでいた時、華美はお粥を持って来てくれ、「服部さんが早く元気になって華美と一緒にごはんが食べられるように神様にお祈りしておいたからね。」と言ってくれました。自分自身のことでも精一杯のはずなのに他者のことを考え祈ることが出来る華美の心の豊かさに優しさに感動しました。いつの間にか大きく成長した華美。そんな華美に助けられ支えられていることを実感しています。何も出来ないけれど、華美のように祈る心を持ち続けたいと思っています。

服部 沙絵子

光の中で

佐藤家

あけましておめでとうございます。今年も皆さまの温かいお支えにお応えできるように子ども達と共に豊かな暮らしを創ってまいります。

クリスマス号で福島勲前理事長の計報がありましたように昨年の十月二十八日に九十歳で天に召されました。もし福島先生がご存命ならこの元旦が卒寿となるはずでした。今年の元旦は福島先生を偲びながら迎えております。

福島先生の余命がそう長くはないと知らせを受け一目お礼かたがた十月十九日に信州の入院先までお見舞いに出かけました。前の週にお見舞に行った施設長からかなり弱っていたとの報告を受けていたのでかなりやつれた先生を想像しながら出かけました。病室に入つたときはお休み中で起きるまで待つことになりました。しばらくして検温のため起きられた先生は「何しに来たんだお前は」と一喝され驚いて私は平謝り(何で謝らなくてはいけないのか)。しかし先生はよく来てくれたと本当にうれしそうに色々お話をしてくださいました。先生はご自身の調子の悪さなど一切語らず間近に迫っていた感謝の集いの心配やアドバイスをくださりまた、ひとり一人の職員の名前をあげて心配

してくださいました。もし私ならただの風邪でさえもわがままになってしまふのに、身体の自由がきかなくなりこの世での終末が近づいていることを悟っているのに他者のことを思いやれる先生の姿に胸を打たれました。最後に先生の手を取ってお祈りをさせてもらいました。あの気丈な先生が涙をうかべて何度も何度も「ありがとう」と言っていて固く握りしめてくれたあの手の温もりは忘れることができません。

福島先生から他者のためにどのような自分の命を使うか、たくさん学ばせていただきました。先生のようにはいきませんが少しでも近づけるように努力していきます。

最後に福島先生のご家族の上に主の豊かな憐れみがありますようお祈りいたします。 穴水 祐介

河のほとり

倉澤家

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。

昨年四月から倉澤家に加わった中学一年の乃衣。素直なとても良い子なのですが、勉強嫌いがたまにきず。初めての定期テストを受ける時にも、何をどう勉強すれば良いのかわからない状態でした。 中高生の学習指導は、指導員やボ

ランティアの方をお願いすることが多いのですが、乃衣の様子を見ているとそれだけではとても間に合いそうになかったため、担当者も手伝うことになりました。

担当者が特に力を入れたのは英語です。乃衣にとって中学生になってから始めた英語は苦痛でした。ローマ字が身に付いていなかった為、アルファベットもままならず、まさにゼロからのスタートでした。やつておくように伝えてあった課題をさぼり、担当者に怒られたことも少なくありません。高校になんか行かないから勉強したくないと他児にもらしていたようですが、きちんとした社会生活を送るためには高校は卒業しておいた方が良いでしょう。という話しを菅原先生から聞き、思い直したようでした。

担当者との学習は今も続いています。まだまだ大きな成果は出ていませんが、高校を受験する頃には自信が持てるようになって欲しいと思っています。

最近では文章力向上の為に、担当者との交換日記も始めました。

部活でほとんど家にいない乃衣ですが学習指導を通して信頼関係を深めていきたいと思っています。

倉澤 智子

### 措置変更

菅原 哲男

あけましておめでとございます。この年も生まれ出でたことを喜び合えるような暮らしをつくることが出来ますよう祈ります。

子どもたちが児童養護施設などの施設を利用する場合、児童相談所などから施設に措置されるといふ。私たちは何気なく使っている言葉なのだ、普通の日常にはあまりなじみのない言葉のようだ。

昨年来、施設で子どもを養育するということを事実即して報告するために、これまで書き散らした養護メモを中心にまとめて出版する準備を進めている。その時、編集者から「措置変更」って一体どういうことな

んですか、と質問があった。また、季刊「児童養護」に私見を述べさせて頂いたが、その中に「行政処分としての『措置』が、虐待の被害者である子どもに適用され、加害者である家族や大人などにはお構いなしなのは納得できない」と書いたら、熊谷児童相談所の宮島清福社司から「公務員がするすべてのサービスや働

きは概ね行政処分であり、措置なのだ」と丁寧にお教え頂いた。措置とは、新辞林によれば、取り計らって始末をつける。処置。措置入院は、精神保健法に基づき、自傷・他害のおそれのある精神障害者ないしその疑いのある者を、複数の精神衛生鑑定医の一致した認定によって都道府県知事が強制的に病院に入院させる、などとなっている。規範を

超え、法に違反した者を「処分」という響きは否定できない。行政処分は、それがすべての行政サービスも含めたものだとしても、被害を受けた者に加えたとの間の明確な「処分」は誰にも分かるよう

でなければならぬと考える。さて、処分として措置され子どもたちが光の子どもの家など児童養護施設にやってくる。虐待などを行った家族や大人達は多くの場合その責めを行政的に問われることは少ないのだ。加害者への対応のなさが自然法

からみても不適當に思える。先ごろ、子どもを放置して家出している間に、措置入所させられた子どもの親が、子どもを施設に奪われ

た、という被害意識や、私の言葉の足りない端を捉えて怒り、こだわり、自らを傷つけて入院する騒ぎがあった。一命を取り留めて一月ほどで回復し、退院していた。それから数回の電話で、「子どもの声を聞かせろ」などと迫ったが、子どもの状況を考慮して応じないでいた。

何をするか分からない不気味な不安や今後の子どもとの関係を考えて、児童相談所に教えられた親の家を地方都市に訪ねたがそこには住んでいなかった。あまり期待もせず、駅前の交番に尋ねると、お巡りさんは知っていた。諷んじていた住所を丁寧に教えられて訪ねたが留守だった。

自害未遂の事件があったから半年をはるかに過ぎて、忙しい児童福祉司はまったくこの親や関係者に関わっていない。少しは動き、親からの攻撃を受けかねない私たちや子どもを守って欲しいと思ひ、「このままだと、私が辞めるか、子どもを措置変更にするしかない、何とか働くように指導して欲しい」と、その福祉司の上司に抗議を含んだ要請をした。そんな電話をしながら、私は

「措置変更」という言葉に新鮮な響きを感じていた。児童養護施設光の子どもの家は、その設立の旗印のひとつに「措置変

更と解雇はしない」を掲げていたのである。だから、光の子どもの家では措置変更という言葉は十八年間使われず死語になっていたのである。措置変更とは、一旦された措置を不適當として児童相談所に差し戻し、子どもを他の場所に移させることである。これは、他の施設ではかなり日常化していて、ここが気に入らなかつたら他の施設でもどこへでも行けばいい、という論理なのである。

一見正當に見えるこの措置変更は、子どもにとっては「脅し」であり、大人にとっては言うことを聞かせるためのかなり便利な方法なのである。行き場を失い、守られる場所を求めてきた子どもたちは、最初はい子を演じるのだが、幼い子で十日、高年齢の子は半年から一年ぐらいで反抗や違犯を試みるのである。また、思春期の子どもたちには手を焼くこともまれではない。こんな時に措置変更は伝家の宝刀のように切れが冴えるのだ。そんな宝刀は子どもの養育にとって凶器でしかない、暮らし

の場にはなじまない代物なのだ。子どもたちはこれまでの生活で得た方法でその表現がすべてである。それらをも無条件で受け入れながら新しい暮らしのあり方をつくっていく大事なパートナーなのである。

日々のことにかまけていくと、見えないうちに行ってしまうかのよう

### 現場から

### 続・光の子らしく

岩崎 まり子

新年明けましておめでとございます。昨年中も大変お世話になり、ありがとうございます。本年もどうぞよろしくご指導下さいますようお願い

します。さて、昨年いろいろなことがありました。出発の日は、「すぐ帰ってくるから」と不安そうにしていた萌季さんでしたが、たくさんの方に支えられてどうにか頑張ることができ、今年からは本格的にアメリカの大学で学ぶことが出来るようになりました。正直言ってこんなに頑張れるとは思って

感じられず、そのことで随分と私自身身が不安になり、苛立ってしまうことが多かったのですが、今、自分の人生を自分の意志で選択し、歩き始めている彼女の姿に頼もしさを感じる。と同時にここに至るまで遠いアメリカで彼女を支えて下さったたくさんの方々の思いに感謝せずにはいられません。本当にありがとうございます。また、年度当初、家のメンバーの変更でやってきた貴君は、片時も座って

お陰もあり、いつの間にかそういうこともなくなりました。一年前にやってきた善実ちゃんも、そういえば、自分の皿と人の皿の区別もつかず、やみくもに手掴みで食べたり戻したりしていました。それが今では、自分の分を自分のはしで食べ、人の物を持つてきってしまうこともなくなりました。

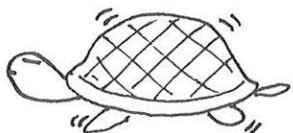
この時期、小学校のときに読んだ「枯木」(題は定かではありませんが)という詩を思い出します。枯れているかのように見える冬の裸木は、実は枯れているのではなく、その「時」が来たとき一斉に若い芽を吹くために、無駄なものは一切剥ぎ取った姿で力を蓄えているのだという内容でした。子供心に、そうだったのか、という妙に納得できた内容で、私は当時からそういう枯木の姿勢のようなものに憧れと畏怖とを持ったのでした。

誰も皆、その「時」を持っているのでしよう。焦ることなく、共にその時を待ち、出来るだけうまく乗り越えられるよう、そのことのためにその「時」に立ち合うことを許されますように。そして、私自身の声にかき消されて、子供たちの内なる声がかき消えないようなことがないようにと、そのことを祈り求めながら、この一年も歩んでいきたいと思ひます。

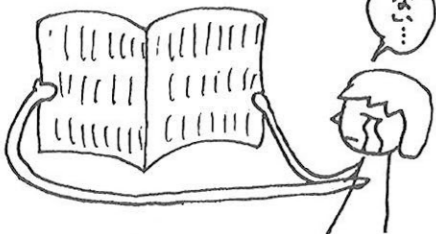
本来なら職員各々からの  
新年のあいさつがあふむのだが...



担当の者が  
かめのように作業がおそく

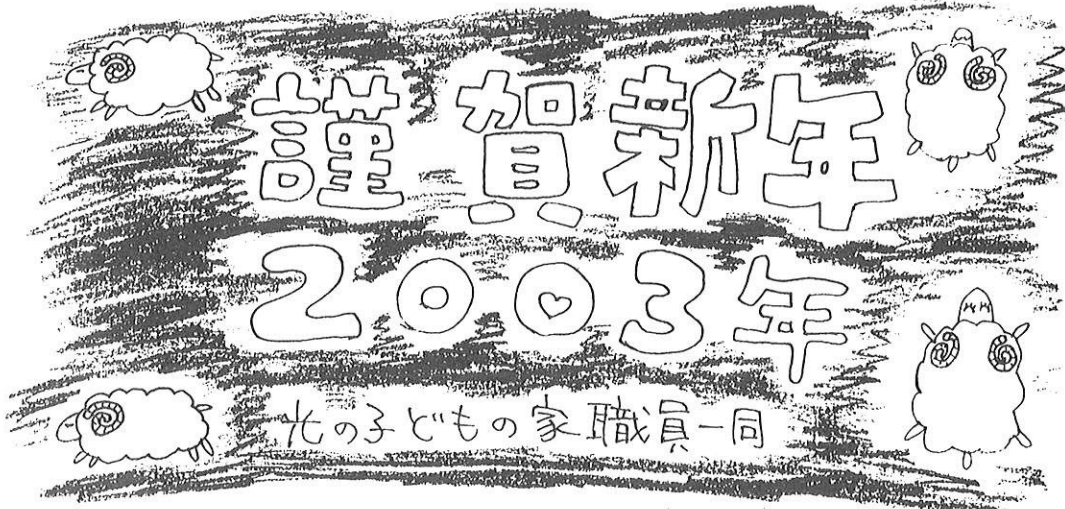


びきませんでした...



いびきをきかす





日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 2002年8月1日 ▶ 10月末日

8月  
 幼児10名 小学生8名 中学生6名 高校生8名 計32名  
 1日 栗橋の割烹『萬屋』よりウナギの蒲焼きをたくさん  
 毎年のご厚意 ごちそうさまでした  
 ○ 川越児童相談所より入所依頼  
 2日 療養中の山川きょうだいの母が行方不明に  
 4～6日 東大宮教会学校夏期学校へ12名参加  
 6日 東京医科歯科大学院・神奈川県立大などから家族問  
 題のケース研究会に4名来訪  
 10日 仙道家帰省できない子どもたちが小西指導員の父上  
 のご厚意で秋田の別荘へ早朝出発14日まで  
 11～14日 帰省できない子どもたち11名と職員7名が  
 湯河原へ 府川夫妻 黛 戸辺氏などのご厚意で  
 16日 裕の父の墓参り 祖母宅訪問のため裕の母と共に秋  
 田～岩手へ家庭訪問カルフォルニア大の実習生2名  
 秋田の盆踊り見学へ  
 27日 江森ヘアサロンより整髪ご奉仕感謝  
 29日 渡海賢入所 原田家相良保育士担当  
 30日 さよなら夏休み大パーティー  
 31日 前山裕家庭引き取り措置停止  
 今月の物品ご寄贈者 村田薫 須藤保 瀬川なつ子 パーラーミ  
 マス 丹羽倫己 木村ミズエ 児玉千種 吉沢昭枝  
 9月  
 2日 2学期始まる

6日 自立支援計画書見直し開始  
 ○ ショートステイ 小一女子 倉澤家にて  
 12日 東京立川市民生児童委員見学・研修に30名  
 16日 悠子 就職試験  
 ○ 菅野圭樹ドクター来訪  
 19日 小舎制養育研究会・研修会 福島で3名参加  
 27日 萌季一時帰国  
 10月  
 5日 越谷児童相談所より中3女子の入所依頼  
 8日 福島前理事長を菅原施設長が見舞う  
 9日 赤十字奉仕団・大利根町後援会構内整備ご奉仕  
 14日 東京福祉大学ヘネシー澄子教授学生と来訪  
 15日 家庭養護促進協会岩崎美枝子氏来訪  
 ○ 中央児童相談所より小六男子入所依頼  
 16日 沙慧専門学校合格  
 17日 大橋清栄氏来訪パソコン修繕ご奉仕  
 23日 大川泰智入所 佐藤家山口麻衣子保育士担当  
 24日 短期大学菊池義昭教授来訪  
 28日 江森ヘアサロンより整髪ご奉仕感謝  
 30日 左多歌音堀中病院退職  
 今月の物品ご寄贈者 小早川典子 小田切未由美 堀沢マリ子  
 比企敦子の各位様 おかげさまで楽しい夏休みが終わり、そ  
 して落ち着いた秋を迎えることができました。感謝(くら)

/// // // // ———— 反 射 光 ———— // // // //

☆賀正 おかげさまで揃って新しい年  
 を迎えることが出来ました☆約半世  
 紀ぶりに児童養護施設関係者が市民  
 など三〇〇名を超える人々と児童  
 虐待防止法改正と昨年虐待によつて  
 死亡した六四名の子どもの魂を  
 鎮めるパレードを日比谷から銀座まで  
 のコースで行いました☆それによつても  
 自らの子どもの虐待を法によつて防  
 止しようというこの国の状態は悲し  
 ぎます☆三〇名定員に三四名がひし  
 めく光の子どもの家の状態も異常で  
 す☆それでも子どもたちは時間を経過  
 する度に新たな変化を見せてくれます  
 ☆その変化に価値尺度を当てずにそ  
 のままを受け入れながら、その子らし  
 い生き方を支援していきます☆明るい  
 幸せな年がやってくるのではなく、前  
 のめりになってこの年をそのように創  
 り上げることを確認しながら歩き始  
 めました☆次号では福島県前理事長を  
 偲ぶ特集を組みます☆投稿など歓迎  
 します☆福島先生など草創の時の志  
 に立ち返りそれを確実に実現して参  
 ります☆乞うご支援！  
 (哲)